

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
黒潮盃	2019/8/14	SII	大井	1800m	ミドルペース	稍重	メンバーレベルの低さ

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	アエノエンペラー	牡3	56	吉原	フリオート	ロベルト系	ウェブトオーヴァーボー	ミスプロ系	B	A	B	C	B	B	△1	
	2	ホホワイトヘッド	牡3	56	本橋	ダンカーク	ミスプロ系	ステイゴールド	サンデー系	B	C	B	C	B	B	△3	
2	3	ハルディネロ	牡3	56	真島	ダンカーク	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	B	B	B	B	B	B	○	
	4	ヤマショウブラック	牡3	56	赤岡	ルースリンド	ミスプロ系	ダンスインザダーク	サンデー系	C	A	C	C	B	B	×2	
3	5	ジョリスヴェニール	牡3	56	御神本	ゴールドアリュール	サンデー系	End Sweep	ミスプロ系	C	A	C	B	C	C	×1	
	6	サージュ	牡3	56	和田	サクラプレジデント	サンデー系	Cure the Blues	ターントウ系	C	C	B	C	C	B	×3	
4	7	グリードバルフェ	牡3	56	笹川	トビーズコーナー	ノーザン系	メジロマックイーン	パーソロン系	A	B	B	B	B	B	◎	
	8	シビックヴァーゴ	牡3	56	矢野	バゴ	ナスルーラ系	ジャングルポケット	ナスルーラ系	C	B	C	C	C	C		
5	9	トドビエン	牡3	56	的場文	エンバイアメーカー	ミスプロ系	Bernardini	ナスルーラ系	C	C	B	B	C	C		
	10	ホールドユアハンド	牡3	58	左海	エスポワールシチー	サンデー系	ゼンノメイジン	ミスプロ系	B	B	D	C	C	C		
6	11	リンノレジェンド	牡3	56	岡部	トビーズコーナー	ノーザン系	ケイムホーム	ミスプロ系	B	B	B	B	B	B	△2	
	12	トーセンボルガ	牡3	56	川島	トーセンモナーク	サンデー系	Mineshaft	ナスルーラ系	B	C	C	B	B	B	▲	
7	13	トワイライトスカイ	牡3	56	町田	エイシンフラッシュ	ミスプロ系	ダイワメジャー	サンデー系	D	C	C	C	C	C		
	14	キングイモン	牡3	56	達城	パイロ	ナスルーラ系	アグネスタキオン	サンデー系	D	C	C	C	C	C		
8	15	アイオロス	牡3	56	今野	ダンカーク	ミスプロ系	ゴールドアリュール	サンデー系	D	C	C	C	C	C		
	16	マブイーグル	牡3	56	森	シルボート	ノーザン系	カリスマティック	ノーザン系	D	A	C	D	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
トーセ ホール リンノ トドビ トワイ ジョリ ヤマシ アイオ グリー ハルデ シビッ ホワイ キング アエノ マブイ サージ	<p>昨年はクラシック路線で揉まれてきたクロスケとクリスタルシルバーの激しいデットヒートとなった黒潮盃。毎年、クラシック好走馬が集い、SII重賞らしくハイレベルな一戦になるが、今年はクラシック好走馬（3着以内馬）が皆無。南関東の重賞勝ち馬もホールドユアハンド（クラウンカップ）のみで、例年に比べて明らかに小粒なメンバー構成になった。それでも人気はクラシック路線組が集めそうだが、今年はメンバーレベルの低さから非クラシック組にも大いにチャンスのあるレースになるのではないかと予想していきましょう。</p> <p>本命は軸にはグリードバルフェを信頼する。クラシックで馬券圏内に好走できなかったとはいえ、東京ダービーで4着に入り、ジャパンダートダービーでは2着デルマルイーグルから0.9秒差に健闘。どちらのレースでも南関東で先着を許したのはヒカリオート、ミューチャリー、ウィンターフェルの3頭のみで、その3頭が不在なのであれば、当然勝利のチャンスが巡ってきていい。確かに今年のクラシック組は全体的に小粒ではあるが、相対的には能力が抜けており、レースセンスの高さからも堅実に走ってくるだろう。（以下省略）</p>	<p>回顧</p> <p>次走狙い馬</p>

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	アエノエンペラー		安定した末脚が武器。近走は外々を回るロスが多い競馬になっており、1枠1番を生かしてロスなく立ち回れば、パフォーマンスをもっと上げられるはず。	△1	
	2	ホワイトヘッド		アエノエンペラー同様に末脚堅実なタイプ。ハイレベルな前走ジャパンダートダービーでもまずまず健闘しており、ジャパンダートダービー組のグリードパルフェから入る以上、当然本馬も押さえておくべきだろう。	△3	
2	3	ハルディネロ		デビューから休み休み使われてキャリア6戦。まだ能力の絶対値が見えてこないが、長期休養明けの前走がハイペースを3コーナー手前から動いてそのまま押し切る強い内容。走破時計的にも上のクラスにいても足りるはずで、今年の低レベルな黒潮盃ならいきなり通用しても驚けない。	○	
	4	ヤマショウブラック		羽田盃でホワイトヘッド、アエノエンペラーに先着しての5着。その後、いまひとつ冴えないものの、赤岡騎手が継続して騎乗できるのは強みで、噛み合わせひとつで上位進出のチャンスがあるか。	×2	
3	5	ジョリスヴェニール		ハルディネロと同様、キャリアが浅く、まだ底が割れていない印象。前走東京湾カップでは直線でグリードパルフェに進路をカットされる場面があった。間隔が空いての一戦になるが、このメンバーならいきなり走ってきても驚けない。	×1	
	6	サージュ		ムラ駆け傾向が強いためか人気を落としているが、折り合いがついて末脚を生かせれば怖い存在。2走前の東京ダービーでは最後方から直線だけで9頭も交わしており、追い比べの展開になれば、好走のチャンスがありそう。	×3	
4	7	グリードパルフェ		東京ダービーで4着に入り、ジャパンダートダービーでは2着デルマルーヴルから0.9秒差に健闘。どちらのレースでも南関東で先着を許したのはヒカリオーソ、ミューチャリー、ウィンターフェルの3頭のみで、その3頭が不在なのであれば、当然勝利のチャンスが巡ってきていい。	◎	
	8	シビックヴァーゴ		3歳になってからの活躍がいまひとつで、早熟だった可能性が高そう。血統的にあまり奥深さがなく、変わり身も見込めないのでは。		
5	9	トドビエン		同世代の特別戦でも掲示板がやっとの走りが続いており、重賞ではさすがに荷が重いだらう。		
	10	ホールドユアハンド		大井の2戦は京浜盃12着、優駿スプリント9着と全く走れておらず。スピード優位の立ち回り型。大井1800mではスタミナ不足が露呈するだろう。		
6	11	リンノレジェンド		北海道のクラシック三冠で5、2、3着と安定した走り。今年の北海道のクラシック路線はリンゾウチャネルが1頭だけ抜けており、生れる時代が異なれば、一冠は手にできていただろう。年明けのゆきやなぎ特別ではスターキャデラックらに完勝しており、今年のメンバーなら能力的に見劣ることはない。	△2	
	12	トーセンボルガ		4走前の若竹賞から条件を問わず好走を続けており、2走前のスパーキングサマーチャレンジではJRAのオープンクラスに在籍していたザイディックメアと僅差の競馬。この時期の3歳馬が古馬相手にあれだけ走れるのは立派で、今年の低調なメンバーなら強敵相手に揉まれてきた経験が生きそう。	▲	
7	13	トワイライトスカイ		前走B3に昇級して大敗。クラスの壁が見えた。同世代同士の重賞でも力不足だろう。		
	14	キングイモン		春の京浜盃では勝ち馬ステップンウルフから2.4秒も離されての11着に大敗。当時から大きく変わった印象はなく、重賞レベルでは力不足が露呈するのでは。		
8	15	アイオロス		骨折休養明けで乗り込みが不足している様子。2走前の雲取賞の負けっぷりを見ても、大井の外回りではパフォーマンスが落ちるのでは。		
	16	マブイーグル		南関東に移籍してから未だに勝ち星なし。鞍上は不気味だが、近2走はC1で勝ち切れておらず、同世代同士でも重賞では荷が重いだらう。		